

# DX化支援 社内認定シリーズ

## ChatGPT業務活用コース

---

生成AIの進化と助成金制度を追い風に、今は企業がAI人材を育成する絶好の機会です。

# 会社概要



• 会社名	オフィスコンサルティング株式会社
• 所在地	〒220-6008 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA807
• 事業内容	教育訓練事業、電力小売事業 光コラボレーション事業、OA機器販売事業他
• 設 立	2018年10月
• ホームページ	<a href="https://office-consulting.co.jp/">https://office-consulting.co.jp/</a>

# サービス概要（シリーズコンセプト）

## DX化支援社内認定 シリーズ

ChatGPT業務活用コース

Google系AI業務活用コース

DX化支援認定シリーズは、企業のDX推進に必要な基礎知識とAIリテラシーを、eラーニングで効率的に習得し、テストで理解度を可視化できる法人向け学習シリーズです。場所を選ばず学べる手軽さと、体系的に学べる実用性を両立し、リテラシーチェックテスト機能によって、受講者ごとの理解度確認や社内の学習定着状況の把握がしやすい設計となっています。「学ぶだけで終わらない」ことを重視し、DX・AI活用の土台づくりと、組織全体の基礎レベルの標準化を支援します。

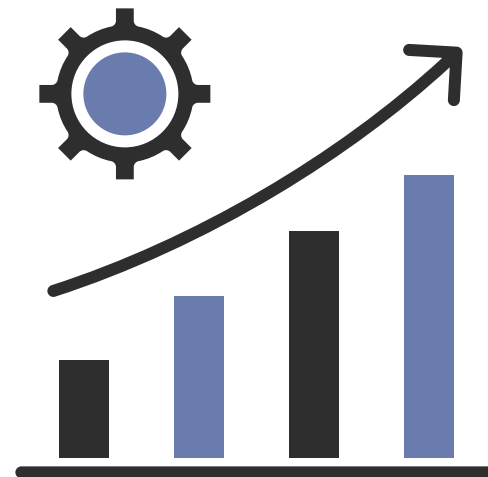
# このシリーズで実現できること

DX・AIの基礎を学び、理解度まで確認できる法人向け教育シリーズ。  
90日間のEラーニングとリテラシーチェックテスト機能で、社内のDX推進に必要な共通基盤づくりを支援します。「学んだつもり」を防ぎ、社内のDX推進に必要な基礎づくりを支援します。



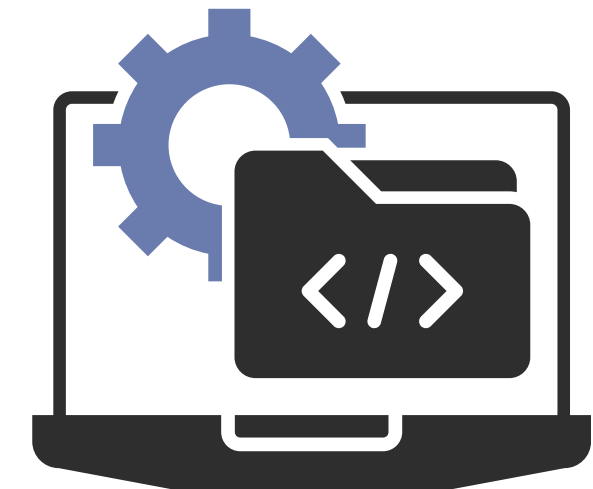
## 体系的に学べる

受講者がDX推進やAI活用に必要な基礎知識をeラーニングで無理なく学習できます。断片的な理解ではなく、実務につながる土台を整理して身につけられるのが特長です。



## 理解度を可視化できる

リテラシーチェックテスト機能により、学習内容の定着度を確認できます。「見たかどうか」だけでなく、「どこまで理解できているか」を把握しやすくなります。



## 組織の基礎レベルを標準化できる

学習内容とテストを通じて、社員ごとの知識のばらつきを減らし、組織としての基礎レベルを揃えやすくなります。DX推進を全社で進めるための共通基盤づくりに役立ちます。

# ご利用企業

製造・小売・サービス・医療/介護など、幅広い業種の企業・団体にご導入いただいています。



## DX・AI教育を全社的に進めたい企業

一部部署だけでなく、全社員に向けてDXやAIの基礎教育を広げたい企業に適しています。



## 受講後の理解度まで確認したい企業

学習機会の提供だけでなく、テストによって理解度や定着度まで把握したい企業に最適です。



## まずは導入しやすい形で始めたい企業

集合研修よりも負担を抑えつつ、eラーニングで効率よく教育を進めたい企業に向いています。

# 当社が選ばれる理由

## 01 ストーリー形式でわかりやすい

登場人物や現場の流れに沿って学ぶため、知識を「自分ごと」として捉えやすく、内容が自然に頭に入ります。

## 02 学習と確認をワンセットで提供

eラーニングで学ぶだけでなく、リテラシーチェックテスト機能を利用することで理解度まで確認できます。「学んだつもり」を防ぎ、学習成果を見える化できます。

## 03 全社展開しやすい内容設計

専門知識がない方でも理解しやすい構成のため、部門や職種を問わず導入しやすいのが特長です。全社的なDX・AI教育の基盤づくりに適しています。

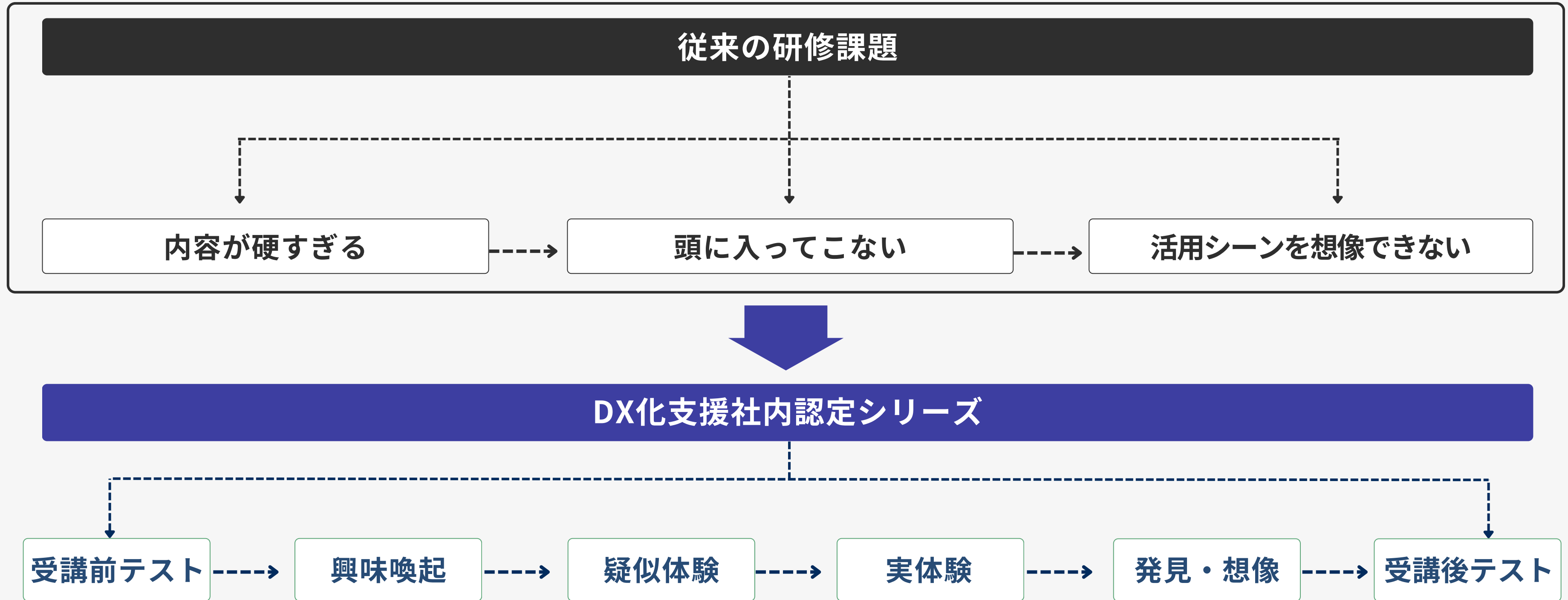
## 04 現場活用をイメージしやすい

実際の業務に近い場面設定で学ぶため、知識の習得にとどまらず、「どう活かすか」まで具体的に考えやすくなります。

## 05 導入しやすいeラーニング形式

集合研修に比べて導入しやすく、受講者が自分のペースで学習できるため、無理なく教育を進められます。

# 構成の特長



学ぶだけで終わらせない。eラーニングとリテラシーチェックテスト機能で、理解度の確認と学習内容の定着を支援する構成です。

# AIリテラシーチェックテスト機能

学習成果が見える化する、AIリテラシーチェックテスト機能付き。  
AIの基本理解から活用時の注意点まで、受講者の理解度を確認できるテスト機能です。  
「学んだつもり」を防ぎ、社内に必要なAIリテラシーの定着を支援します。

※テストはカリキュラムには含まれておりません。

## 研修で学んだAIの理解度が見える化し、教育効果をしっかり確認

Q1 未解答  
マークダウンとは主にどのような目的で使われる記法ですか。

- A. コンピュータの処理速度を上げる
- B. 文章の構造を分かりやすく表現する
- C. AIの学習データを増やす
- D. ネットワーク通信を高速化する

Q2 未解答  
次のうち、マークダウンの見出しを書く正しい方法はどれですか。

- A. # 見出し
- B. @ 見出し
- C. \$ 見出し
- D. & 見出し

Q3 未解答  
マークダウンで箇条書きを作るときによく使われる記号はどれですか。

- A. -
- B. #
- C. %
- D. &

Q4 未解答  
マークダウンの引用を表す記号はどれですか。



カテゴリ	ランク	点数
仕事に対する基本姿勢	😊 C+	17/30
AIの基礎理解	😞 D+	22/50
倫理・法規・セキュリティ意識	😊 C+	36/70
生成AIの活用	😊 C+	25/40
AIの適切な活用判断	😞 D+	26/60

一覧に戻る

# 学習管理システム（LMS）

直感的に操作できるプラットフォーム設計により、スムーズに学習を進められ、受講完了後には修了証明書を発行



修了証明書



プラットフォーム

## 01. 直観的に分かりやすいデザイン

ユーザー視点を徹底し、誰にとっても理解しやすいシンプルかつ直観的なデザインを設計している

## 02. 結果の管理

各受講者の学習進捗および視聴履歴を記録しCSV形式でのデータ出力に対応している

## 03. 飛ばし見防止機能付き

学習効果を高めるための飛ばし見防止機能を搭載している

# ChatGPT

## 業務活用コース



**メモリ機能（長期的・自動的な記憶）**

メモリバンク（記憶データベース）

ユーザーは犬が好き  
犬やコーギーについて興味あり  
やさしく、親しみやすく

「犬にはこの切り口が合いそう」という調整

↓

**AIの返答（例）**

犬について詳しいんですね！  
柴犬やコーギーについて  
もっと教えてほしいですか？

チャットを続けていくうちに  
保存されるもの

- ✓ ユーザーの好み
- ✓ 特定の呼び方
- ✓ プロジェクトの前提条件

**適用範囲**  
現在のチャットだけでなく、新しい  
チャットにも引き継がれる

「おれたちメモリ」として残ることがあり、少しずつメモリが増えてい  
かっている。ちょっと見てみようか。

1章

生成AIは、いろいろな種類や機能を知ること大切ですが、一つの  
ツールを深く使い込む中で、これまで見えにくかった価値に気づく  
場面も増えていきます。

この教材では、数ある生成AIの中からChatGPTを入り口として、  
仕事の中でどのように使えば効果が出るのかを、具体的な場面を想定  
しながら順を追って説明していきます。

実はね、前職では、工場で生産管理の仕事をして  
いたんだ。

# AIの力で課題を解決するストーリー

### 研修だけでは定着しない理由

理解度

研修室  
その場では理解しても...

現場  
「いつものやり方」に戻ってしまう

研修後  
使いながら覚える

そこで今日の結論。ChatGPTは「研修を受けたあと」にこそ、真価を発揮する。つまり、使いながら覚えるための相棒になるんだ。

## 定着・習慣化まで見据えた研修設計

学んで終わりではなく、継続的に業務で活かせる使い方まで身につけられます。

### 従来のAIの仕組み

過去データ・事例の学習

センサー等からの数値データ入力

学習データと数値の照合

照合結果より判断(識別・予測)

正解の選択肢(AかBか、はい/いいえ)が決まっている問題が得意

なるほど。その「判断」って、具体的にはどんなことですか？

## 安全に活用するための基礎力を習得

生成AIの注意点に加え、セキュリティや著作権など業務利用に必要な基礎も習得できます。

### アイデアの創出 5.2

S: Substitute (代用する)

- 一部業務を介護補助・無資格者に代替  
→ 記録、環境整備、配膳などを切り出し、専門職の拘束時間を減らす
- 常勤100%前提を見直し、短時間・スポット職員で代替
- 人でなく「仕組み」で代替  
→ 見守りセンサー、音声入力記録などで夜勤負担を軽減

C: Combine (組み合わせる)

- シフト作成 × 職員希望 × 疲労度データを組み合わせる  
→ 単なる希望制ではなく「連動回数・夜勤回数」を自動考慮
- 施設間連携  
→ 近隣施設と「応援職員プール」を共有

+ 質問してみましょう

## 現場ですぐに使える実践型学習

情報整理、資料作成、PDF活用など、実際の業務に沿って学べる構成です。

# 各章で学べるAI

■ 全14章構成

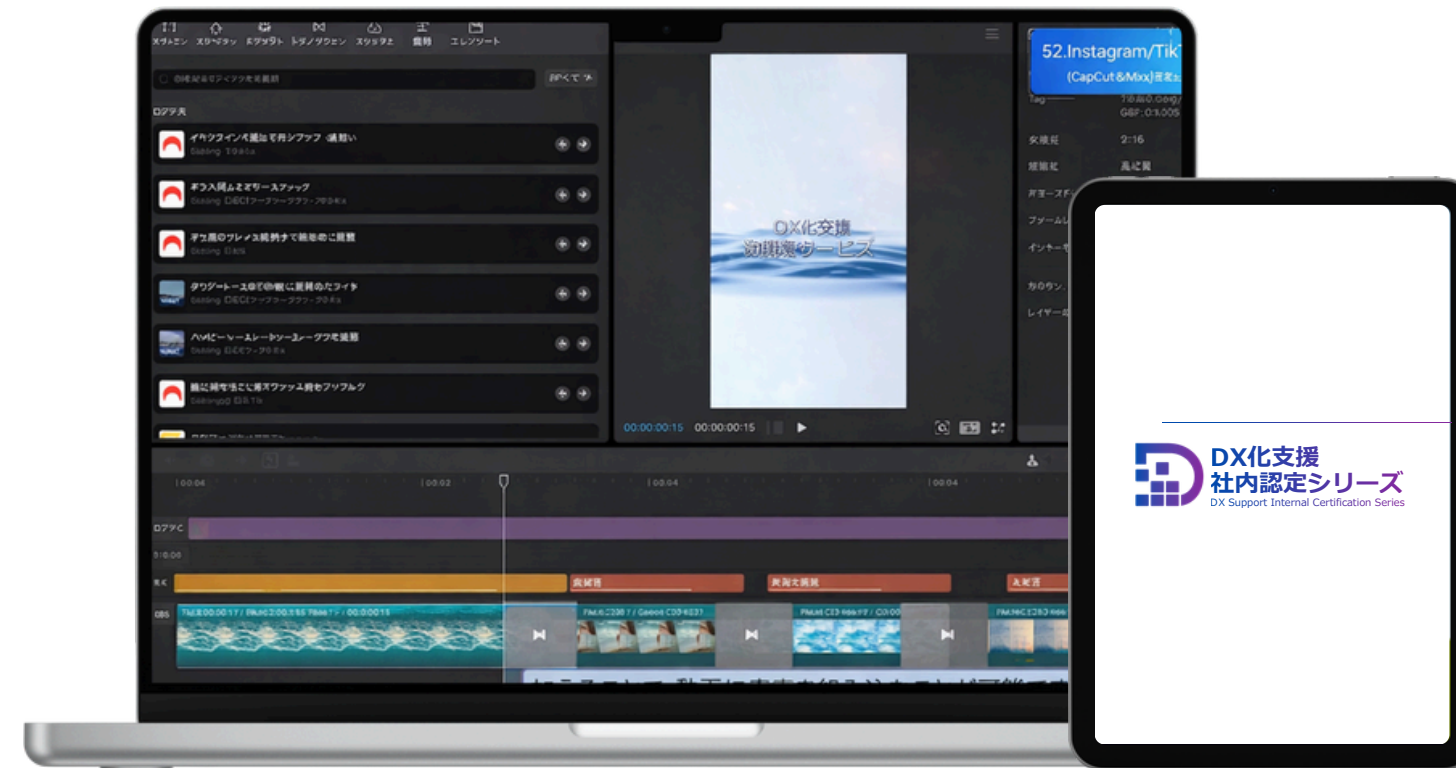
■ 標準学習時間：約12時間

■ 全動画 3か月間見放題

<p>01章</p> <p>【内容】 生成AIが広がる背景や、業務で成果を出す使い方を学びます。 あわせて、LLMの仕組みや検索との違いを理解します。 【身につくこと】 生成AIの特性を踏まえ、適切に活用する基本的な判断力が身につきます。</p>	<p>02章</p> <p>【内容】 ChatGPTにもっともらしい誤りが生まれる理由を学びます。 あわせて、ハルシネーションと事実確認の大切さを理解します。 【身につくこと】 ChatGPTの出力を下書きとして扱い、確認しながら使う基本姿勢が身につきます。</p>	<p>03章</p> <p>【内容】 ChatGPTが情報を扱う仕組みを学びます。 あわせて、パーソナライズ、メモリ、会話履歴の違いを理解します。 【身につくこと】 設定や記録の仕組みを踏まえ、安定して活用する基本が身につきます。</p>
<p>04章</p> <p>【内容】 ChatGPTの画面の見方と基本操作を学びます。 あわせて、履歴整理やGPTsの基本も理解します。 【身につくこと】 画面構成と基本操作を理解し、迷わず使い始める力が身につきます。</p>	<p>05章</p> <p>【内容】 写真や画像を使った基本的な活用方法を学びます。 あわせて、画像への質問や編集の基本を理解します。 【身につくこと】 画像を使って状況を整理・共有する基本的な力が身につきます。</p>	<p>06章</p> <p>【内容】 PDFから必要な情報を引き出す使い方を学びます。 あわせて、PDFを質問できる情報源として使う考え方を理解します。 【身につくこと】 目的に応じてPDFの内容を整理・抽出する力が身につきます。</p>
<p>07章</p> <p>【内容】 資料や文章のたたき台を作る進め方を学びます。 あわせて、対話しながら形にしていく使い方を理解します。 【身につくこと】 ChatGPTをたたき台作成や推敲に活用する基本が身につきます。</p>	<p>08章</p> <p>【内容】 音声入力を使って考えを整理する方法を学びます。 あわせて、現場で無理なく使うための考え方を理解します。 【身につくこと】 音声入力を思考整理や下書き作成に活かす力が身につきます。</p>	<p>09章</p> <p>【内容】 クレーム対応の基本の流れを学びます。 あわせて、GPTsを使った実践的な練習方法を理解します。 【身につくこと】 クレーム対応を型に沿って進める実践的な力が身につきます。</p>
<p>10章</p> <p>【内容】 理解度チェック用のクイズを作る方法を学びます。 あわせて、復習につなげる運用の考え方を理解します。 【身につくこと】 学びを繰り返し確認できる仕組みを作る力が身につきます。</p>	<p>11章</p> <p>【内容】 ChatGPTに意図を伝えるためのマークダウンの基本を学びます。 あわせて、情報を構造化する大切さを理解します。 【身につくこと】 目的や前提、出力形式を整理して伝える力が身につきます。</p>	<p>12章</p> <p>【内容】 生成AIを業務で使ううえで必要なセキュリティと著作権の基本を学びます。 あわせて、安全に使うための考え方を理解します。 【身につくこと】 情報の扱いや利用条件を踏まえて適切に判断する力が身につきます。</p>
<p>13章</p> <p>【内容】 これまで学んだ内容を振り返り、復習します。 あわせて、継続して活用するための考え方を理解します。 【身につくこと】 自分の業務でどこから使うかを整理し、実践につなげる力が身につきます。</p>	<p>14章</p> <p>【内容】 ChatGPTの出力を見直し、自分の意図に合わせて整える進め方を学びます。 あわせて、自分の考えを言葉にして反映する大切さを理解します。 【身につくこと】 AIの出力を自分の成果物として仕上げる力が身につきます。</p>	

# サービス料金

DX化支援社内認定シリーズ ChatGPT業務活用コース：サービス料金（受講料金）



**1人：182,000円（税別）**

- AIの利活用に特化した研修を体系的にパッケージ化。LMS機能（学習管理システム）を備えたeラーニング動画形式
- 動画視聴後は日常業務へAIを取り入れた実践が容易となり、業務効率化を強力にバックアップ

# 助成金入金までの流れ



# 助成率・助成額について

厚生労働省の人材開発支援助成金一事業展開等リスクリング支援コースの申請が可能  
(DX化支援社内認定シリーズをご受講の場合)



※ 助成率は中小企業最大75%、大企業最大60%。ただし、経費助成限度額は中小企業が15万円、大企業が10万円となります。

# ありがとうございます

---

生成AIの進化により、ビジネスの前提は大きく変化しています。  
今や、AIを活用できるかどうかが生産性と競争力を左右します。  
助成金を活用し、負担を抑えながらAI人材育成を進める絶好のタイミングです。